



異星のひみつ



★ 2005年1月に、惑星探査機ホイヘンスは、霧（きり）のかかった土星の最大の衛星であるタイタンの空に飛び込みました。地球からとっても遠い世界に着陸する最初でたったひとつの探測機になりました。そして、ここまで来るのに7年以上かかったことを考えると、そんなに驚くことはありません。

タイタンは、太陽系で最も地球に似た場所のひとつです。地球に似て、タイタンには大気がありますが、この大気は非常により濃くて、地球より高くまで宇宙にひろがっています。この霧のかかった大気は、かすんだオレンジ色の大気でタイタンの表面をおおっていて、私たちの目にはその秘密がわかりません。ホイヘンスの目的はこれらの秘密を明らかにすることになっていましたが、それは成功しました。そして、タイタンという異星の何百もの風景写真を得ました。

いま、ホイヘンスからほぼ8年がたち、科学者は彼らの目としてホイヘンスの情報を使って、この異星の世界を今でも調査しています。探測機が着地し、衛星上をすべって完全に止まるまで、はらはらドキドキの10秒がかかりました。ESAの科学者は、着陸しどんなデータを得たかについて、正確にするために、コンピュータによるシミュレーション(もぎ実験)をしました。

着陸後のわずかの間の情報からでも、タイタンの表面について新しいひみつが明らかになりました。探査機が着陸したとき、宇宙探査機ホイヘンスがすべったため、地表面に氷のうすい層があることがわかりました。その下の地面は私たちが地球の浜辺にある湿った砂によく似ています。

COOL FACT

★ タイタンは太陽系では木星の衛星ガニメデに次いで2番目に大きな衛星で、私たちの月よりも大きく、惑星の水星よりもすこし大きいです。